

2019年 8月 浜松聖書集会のご案内

(時間 : 午前10時 ~ 正午)

○ 8月 4日 (日) 集会 (アクト研修交流センター403号室)

司会 : 武井 めぐみ 感話 : 武井 陽一

聖書講話 : マルコによる福音書 1章29 ~ 45節

「重い皮膚病の人をいやす〜ハンセン病の提起するもの〜」 水戸 潔

○ 8月11日 (日) 集会 (アクト研修交流センター403号室)

司会 : 大屋 智代 感話 : 太田黒 幸雄

聖書講話 : 詩編 137篇 (バビロンの流れのほとりで)

「バビロン捕囚を想う〜関連聖書箇所を墨書して〜」 溝口 春江

○ 8月25日 (日) 集会 (アクト研修交流センター403号室)

司会 : 水戸 潔 感話 : 相原 夏江

聖書講話 : イザヤ書5章20~25節

「矢内原忠雄先生の著書を読む」 平井 国雄

・・・ 通 信 ・・・

◇ 2018・8・15 浜松・平和のつどい

日 時 : 8月15日 (木曜) 午後2時~4時 場 所 : 浜松地域情報センター

講 演 : 「まちなか民主主義ってな〜に？」

講 師 : 菱山 南帆子 氏 (許すな! 憲法改悪市民連絡会事務局次長)

主 催 : 浜松・憲法九条の会 共催 : 戦争させない・9条壊すな! 浜松総がかり行動

創世記17章・3~8節

内村 鑑三

神は誠信(まこと)なり。彼は自己を信ずる者を歎きたまわず。彼はまず自己を与えたまいて、しかる後に、彼の造りし物を与えたまう。まず自己をアブラハムに現わしたまいて、しかる後に、彼の数多き子孫にカナンの土地を与えたまえり。信仰の報賞は、先に、霊にして、後に物なり。約束の「物」は人を導いて、約束の「霊」にいたらしむ。われら、神を信じて、物を得ざればとて悲しむべからず。そは、まず霊を与えられて後にまた物をも豊かに与えらるべければなり。(続・一日一生2月1日 信16・288)

創世記22章10~13節

内村 鑑三

エホバ、エレ(エホバ、備えたまわん)(主の山に備えあり) (14節)

エホバは憐憫(あわれみ)の神である。その子を苦しめんと欲して苦しめたもうのではない。その罪の本源たる利己の心を殺(そ)がんとために苦しめたもうのである。すでに犠牲の決心と行為があらわれて、エホバはその余を要求したまわない、天より声あり、アブラハムに告げていうた「なんじの手を童子(わらべ)につくるなかれ」と。ああ救い! しかり恩恵(めぐみ)! 愛子を一たび神に献げて、彼はふたたび神よりこれを与えられた。アブラハムはここに再び犠牲の何たるかをさとった。犠牲は棄てるのではない、さらに得るのである。燔祭(はんさい)の供え物は、神ご自身、べつにこれを備えたもうた。牡羊(おひつじ)は林叢(やぶ)の中につながれてあった。(一日一生 4月17日 注1・204)

しかり、われらもまたすべて神より、われらの有するもつとも善きものを要求せられるのである。あるいは子であるか、あるいは妻であるか、あるいは財貨(たから)であるか、あるいは位階(くらい)であるか、あるいはこの世の名望であるか、あるいは時には技芸学問であるか、いずれにしろ、われら各自が、おのが生命よりも大切なりと思うものを要求せられるのである。その時が信仰の大試験である、この試験に及第して、われらは、はじめて完全に神の物となるのである。しかし、この試験に落第して、われらはその時まで得しものまでをことごとく失うにいたるのである。人生の大事とは実にこの時である。われら各自の運命の定まるのは実にこの時である。(続・一日一生2月20日 注1・205)